

中二国語科通信

第2号
令和5年11月11日
国語科2年担当
堀之内・狭間・奥洲



ゴリにしか見えないけれどミッチーの気分
で前髪立てたがる吾子

優秀賞 受賞!

夏休みの課題の一つであった作品応募の中で、「第20回『新聞』感想文コンクール」(宮崎日日新聞社主催)に応募した田中美羽さんの作品が優秀賞に輝きました。十一月二十四日付の宮崎日日新聞に掲載された作品を紹介します。

「ワークライフバランスで作る未来」

田中美羽



「男女平等度日本百十六位、G7で最低」私は記事の見出しに「かく然とした。」

男女平等度とは、スイスのシンクタンク、世界経済フォーラムが、政治・経済・教育・健康の四分野における各国の男女参画などの度合いを評価し順位付けしたもので、日本は教育・健康ではほぼ男女平等であったが、政治・経済では下位であり、総合評価では百四十六カ国中百十六位という結果であった。

私は、共働きの父と母について考えてみた。母は朝四時半に起床し、朝ご飯、昼のお弁当、夜ご飯を作り職場に向かう。父も同じ時間に起床し、洗濯物干し、ゴミ出し、食器洗いをしてから職場に向かう。父は帰宅すると、

朝に母が作っていった夜ご飯を温め準備する。食事が終わると五歳の妹をお風呂に入れ、仕上げの歯磨きまで終わらせる。医大で働く母は夜遅くに帰宅し、夜ご飯の片づけ、保育園の準備をして、洗濯物を畳みながら私と妹の話聞く。休日も研修会や学会に参加したり資格取得の勉強をしたりと忙しそう。しかし、私には母がとても輝いて見える。母はいつも、「うちの世界一のパパに感謝。」と言っている。とてもハードな日々を夫婦二人で支え合いながら乗り越えている。私の家は、まさに男女平等だ。

しかし、父母の話聞いてると仕事に対して悩みや葛藤を抱えていることも分かった。多くの仕事を引き受け実績を残すことで評価されることが多い。遅くまで残業をすることができる。独身の同僚や、専業主婦を持つ同僚とは格差ができてしまう。休日までに自己研鑽に励む必要があり子供と過ごす時間、体を休めてゆつくりする時間が持たない、とい

った事だ。父に関しては、「女性が働きやすい職場」イコール、女性に負担をかけてはいけない、力仕事はさせられない、サポートして定時に帰宅させてあげなければ、というプレッシャーの中で、自分も子供のためにもっと早く帰りたいという思いを押しつぶして働いているようだ。

「働き方の男女平等」とは一体何なのか。私は調べてみてハッとされた。父のように女性に負担をかけすぎないよう仕事を負担し、子育て中の女性に残業をさせないよう仕事を割り振ることは、素晴らしいことだと思ふ。しかし、本来の「働き方の男女平等」とは、女性を優遇する事ではなく、「誰もが」自分らしく生き生きと働き、自分らしくキャリアを築き、幸せな人生を送れることである。働くすべての人が、「仕事」と、育児や介護・趣味や学習・休養・地域活動といった「仕事以外の生活」との調和を取り、その両方を充実させる働き方・生き方ができること、つまり「ワークライフバランス」がまさに「働き方の男女平等」の実現であると思った。

記事には、日本が最低ランクであった原因の一つとして、「女性管理職の少なさ」も挙げられている。女性管理

職の割合、それは「意思決定への参画」や「平等なリーダーシップの機会」を示す分りやすい指標の一つとして考えられている。女性管理職が増えることで、「ワークライフバランス」の実現に近づけるかもしれない。

母がこんな話をしていた。「努力がなくなるとなりたい自分にはないのよ。ママは目指したいものがあるから、子供がいるからできない、時間がない、ではなく、大変だと分かっているもそこに飛び込んで頑張っているのよ。」

私は、父と母のことを誇りに思っている。しかし私は、少しでも早く「ワークライフバランス」が当たり前の社会になり、仕事を頑張りつつも父と母が揃って定時に帰宅し、休日には家族でゆつくりとした時間を過ごせるようになることを心から願っている。

仕事と家事、育児をこなしながら、さらにキャリアを向上させようと努力されているお母さんと、それを支えるお父さんは、働く女性にとって理想のご夫婦だと思えます。しかし、その生活を成り立たせるための日々の苦勞は相当なものです。田中さんの言うように、もっとゆとりをもって働ける社会にしていきたいですね。(堀之内)

あけましておめでとうございます。今年も全力でガンバロー!

宮崎日日新聞 十四歳の君へ わたしたちの授業

〈10月23日掲載〉

作家 落合恵子「総合学習」

「自由になるための勉強必要」

- ・望む自分になるための学ぶ
- ・人は違うから面白い
- ・もう一つの学校を見つける

残念ながら新聞掲載には至りませんでした。提出されたものの中から秀作を数点紹介します。

三組 尾方望桜



私はまだ将来の夢や進路が決まっておらず悩んでいる。でも、今、戦争や環境問題に自分の人生を左右されている子供がたくさんいる中で、自分に人生の選択権があることがどれだけ幸せなことなのかを実感した。このことを忘れずに自分のペースで「私が望む私」になりたい。

二組 河野景虎



私は、よく先生や親から注意等を受けた時に、「分かってもらいました。」と言いつつも、心の中では自分のことは自分で決めさせてくれればいいのと思っていて。だが、最近、その注意等も自分の為のものとして分かってきた気がする。これは、自分が自由に生きていく未来にすることを求めているからだろうと思う。

二組 平石紗彩



私は、将来、自分が自由を得るためにも勉強しないといけないなと思った。私の夢は獣医師なのだが、最近医療現場を見る機会があり、医療関係もとてもかっこいいなと思った。将来、自分がなりたいたいものになれるように勉強をして、一番幸せになれる選択をしたいなと感じた。

三組 甲斐媛愛



私は小さい時、一人でいることが多かったと母に聞いた。今は学校では一人だと周りの目がばかり気にしてしまつて友達に囲まれていないと不安になる。でも本当は一人の時間が好きだ。「私が望む私」、この言葉はとも私の心に響いた。自分は今どんな人になりたいのか、難しいが自分なりの答えを見つけた。

【僅差だったで賞】 勝者

第1位 1枚差 谷山紗友里・川崎桜乃花

高山碧衣・永山凜桜・高橋埜利
宮原和香・入田真衣・竹町悠那
田中美羽・柿崎世成
川畑陽菜・牧棧子



【大差だったで賞】 勝者

第1位 30枚差 笠原涼寧・尾方望桜
第2位 21枚差 早川紗樹・平田逢夏
第3位 18枚差 石丸青葉



夏大会

十月二十日